

互いに相違点があることは認めよう。たとえ今すぐ相違点を克服できないにしても、少なくとも多様性を認められるような世界を作る努力はできるはずだ。

～ジョン・F・ケネディ～

### 文化のるつぼ「渋谷」を舞台に考える多様性

文化のるつぼ「渋谷」は多様な文化の発信地であるだけでなく、日本で最初に導入したパートナーシップを導入するなど、「多様な人々とともに創り上げる協奏するまちづくり」に取り組んでいます。そんな誰もが暮らしやすい街づくりを推進する渋谷で、都内の中学生を対象とした3日間の異文化協働プログラムを実施しました。今回は、多様な文化背景を持つ留学生と「多様性」をテーマに学ぶ「共感する心と挑戦する心を育むプログラム」の事例についてご紹介します。

### LbE Quiz!

#### Question:

以下は、ガムテープですが、ガムテープの当たり前を疑い、ちょっとした工夫をしたことで、最近バズりました。それはどんな工夫でしょう？



1. 色をカラフルにした
2. 形を丸から四角へ変えた
3. サイズを小さくした  
(答えは裏面に記載)



### 当たり前を疑うこと＝共感する心??

3日間にわたるプログラムの初日は、留学生の母国の文化や生活について知る活動を行いました。日本との違いや共通点に目を向けることで、参加者が自分自身の物事の見方や考え方、「当たり前の価値観」への気づきを得る機会としました。2日目は留学生と共に渋谷へフィールドワークに出かけ、「誰もが平等にいきいきと暮らせる渋谷」をテーマに、留学生の価値観に触れる活動を行いました。

「留学生にとって渋谷の街の魅力／不便だと感じることは？」

「渋谷で発見できるユニバーサルデザイン<sup>1)</sup>とは？」



フィールドワークでは、渋谷の街のありふれたモノやコトにスポットライトを当てました。上記の問いについて留学生の視点から考え、自分たちにとって当たり前の風景や常識を疑ってみることに挑戦しました。活動を体験した生徒の感想を一部紹介いたします。

『実際に渋谷を歩いてみて「外国から来た人だったら」、「お年寄りの人だったら」、「小さい子供を連れていたら」と立場を変えて普段見慣れた景色を見てみたら便利だと思っていた街がすごく不便だと感じました。例えば、渋谷駅構内にある地図は表示が多すぎていきたくないところに行くにはとても難しいし、そこで迷子になって他の人に助けを求めようにも言葉が通じないから大変です。QRコードで読み込むシステムも携帯を使えることを前提としていて携帯を持っていない小さい子供や、携帯の使い方が分からない高齢者にも難しいことだと思いました。改善案を考えることは難しいですが、色々な人の立場に立って当たり前を疑ってみることを学びました。』



## LbE Quiz! 答え

### Answer:

2. 形を丸から四角へ変えた。

答えは2です。

丸い円形のガムテープを四角い形状にしたことで、①転がっていかない、②お店で陳列しやすい、③同じ間隔で切りやすいなどの付加価値が生まれ、話題となりました。

身の回りの当たり前を疑ってみる(異化する)ことの好事例ではないでしょうか。

言語学者であり、作家であるヴィクトル・シクロフスキーが提唱する言葉に「異化」という言葉があります。異化とは、簡単に言えば、当たり前だと思っていたことを、当たり前でなくすることです。普段は意識しないことに着目し、文化背景が異なる留学生と協働することによって、当たり前を異化することができます。このことは、プログラムの目的でもある「共感する心」を持つために必要な気づきに繋がったように思います。

## 多様性への気づきが未来を変える

最終日には3日間のプログラムの集大成として、「誰もが生き生きと暮らせる渋谷」をテーマにプレゼンテーションの発表を行いました。

『三日間のプログラムを通して、多様性の大切さについて改めて学ぶことが出来ました。グローバルリーダーの出身地パキスタンの文化や伝統、衣食住など日本との違いや、誰もが平和に暮らせる世界をつくるためのユニバーサルデザインについて改めてよく考えることが出来ました。外国との様々な違いはあるけれどお互いの違いを理解しあえる世界を作っていくことが大切だと思いました。』

多様性への気づきが、身近な場所だけでなく世界の課題にも目を向ける共感力を引き出す。そんな可能性を感じる参加者の言葉だと思えます。

共に未来を創る仲間として多様な人々と協働する経験は、参加者の可能性を広げ、世界を変えるために挑戦する意欲へとつながる。LbE Japanは、これからも当たり前にと捉われず、様々な方法で子ども達の明るい未来を実現する学びの体験を提供し、21世紀に活躍できる人材育成のサポートに努めます。

この度は Newsletter 第19号を手にとっただき、誠にありがとうございました。

これからも、日々増え続けている「学びの場面」の事例をピックアップしてご紹介させていただきます。

株式会社 LbE Japan (エルビージャパン) <http://www.lbejapan.co.jp> [info@lbejapan.co.jp](mailto:info@lbejapan.co.jp)